完璧な施工サイクルを

県建設業協会 大口支部安全パト

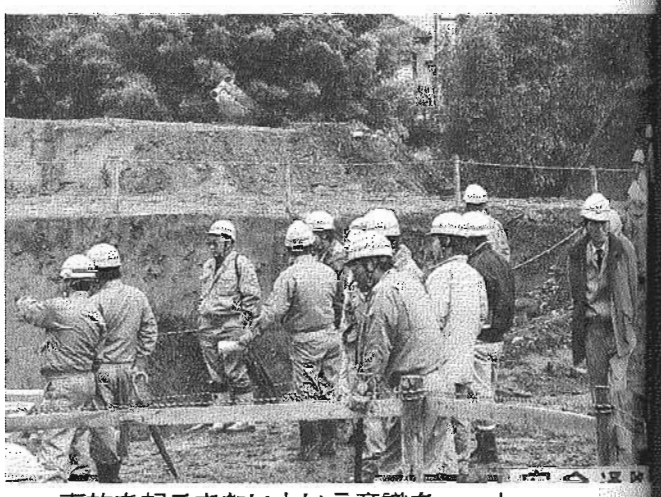
県建設業協会大口支部（桃山勲支部長）は22日、会員、本部役員、発注機関、加治木労働基準監督署などから約50人が参加して、管内の現場5カ所で安全管理パトロールを実施した。

当日はあいにくの雨模様だったが、林隆秀副支部長が「安全管理には悪天候は関係しない。本日は、事故が起きる要因を特定し、減少もしくは排除するのが安全管理マネジメントであることを念頭に診断を行っていただきたい」と挨拶。一行は3台のマイクロバスに分乗して出発した。

各現場では診断員が現場事務所や書類、展示物など細かくチェックし、現場代理人に安全対策や安全教育やKY活動の実施状況などを確認。良い現場は自社でも見習うとさまざまな質問を寄せる参加者も見られた。

反省会では、会員及び㈱富士建設の現場では事務所も整備され、すばらしいと高い評価を得た。また、神村健一郎加治木労働監督署厚生労働技官からは、日常的な重機点検の義務付けや安全施工サイクル運動の完全実施等の要望があった。

最後に林副支部長が「企業防衛という観点からも記録は完璧に記入していただきたい。毎月の定例パトに加えて安全施工サイクル運動の完全実



事故を起こさないという意識を――と激励した安全パト＝大口市の現場で

水の大切さを再確認した発表会＝鹿児島市の城山観光ホテルで

"みず"テーマに新技術学ぶ

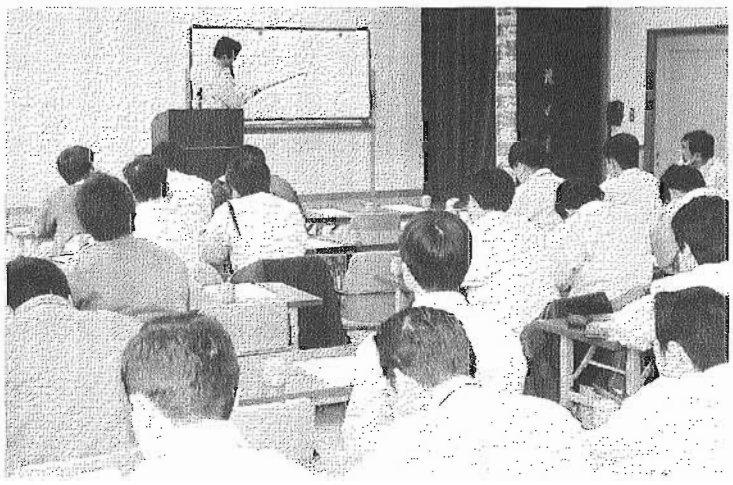
県環境整備事業協組 浄化槽研究発表会

「みず―生命（いのち）の源―」をテーマに県環境整備事業協同組合（鳥越澄夫理事長）は22日、鹿児島市の城山観光ホテルで第10回浄化槽維持管理技術研究発表会を開き、講演や研究発表等を通じて浄化槽管理士の役割や新技術を学んだ。

発表会には浄化槽維持管理業務従事者や行政担当者、組合員など約320人が参加。冒頭、鳥越澄夫理事長が「会も10回を重ね、管理士の皆さんの技術の向上に寄与していると思う。今後もいい仕事をして、住民サービスと水環境の向上に努力を」、また、実行委員長の櫟山幸男青年部長は「ここ数年の浄化槽の変化は早く、対応できる知識と技術力が必要。今回、水のテーマのもと初心に返り、適正な維持管理を違う角度で見てほしい」と挨拶。

次いで、来賓の牛之濱道久県環境生活部長、県環境保全協会長・県合併処理浄化槽推進市町村協議会長の代理として又木紘専務理事・常務理事が祝辞を述べた後、大森英昭㈶日本環境整備教育センター理事が「し尿処理の歴史的発展と将来方向」と題して記念講演。大森氏は毎年これだけの人数を動員し研究発表していることを賞賛した上で、「し尿処理施設の能力が限界に来ている。高率・安定した機能を有す浄化槽の開発が急務」と語った。

この後は、江籠純一氏㈲南薩東京社）、松田誠一郎氏（㈲長島衛生クリーンセンター）、坂元修一氏（㈶県環境検査センター）の研究発表や、「水と循環」をテーマとするパネルディスカッションも実施された。



座標計算などの講義が行われた研修会＝薩摩町の観音滝公園で

鹿児島建設技術センターが研修会

座標計算の実地研修など

鹿児島建設技術センターは22日、薩摩郡薩摩町の観音滝公園及び国道504号の現場で建設技術専門研修会を実施、近隣の県土木事務所及び管内市町村から若手技士ら約50人が参加して、道路中心線の座標確認など現場管理の技術などを深めた。

午前中は、観音滝公園の研修室でテキストに基づいて講義が行われ、㈱大進の今村弘美氏が曲線緒元及び計算簿の説明、新和技術コンサルタント㈱の有村浩美氏が丁張計算を、㈱みともコンサルタントの秋野義廣氏が座標計算と座標差計算をそれぞれ講義。参加者はテキストにチェックを入れたり計算機で実際に計算するなど真剣に聴き入っていた。

午後からは、県宮之城土木事務所発注の道路改築（北薩空港道路永野工区）国道504号の現場において、計測器のトランシットを使って実地が6班に分かれて行われ、光波測距による基準点から道路中心線の座標計算や道路中心線からの距離及び高さの計算などを確認、習得した。

「発注者側の若手技術者の技術向上を図り、現場管理の強化に期待している」と語った。

前迫石材工事現場

"巨大ヒラメ"にびっくり

稲荷川河口の石積み補修工事を担当していた前迫石材㈱は、鹿児島市石橋記念公園内を流れる同川の右岸水門付近で81㌢の巨大ヒラメを捕獲、思わぬ迷い魚に驚く一方、水環境の改善と河川の浄化の賜と喜んだ。

同現場は、県発注の第3228号県単河川等防災工事で㈱種田建設が施工。同社の下請けとして稲荷川河口の石橋記念公園内を跨る橋りょう上流部の石積み補修工事を任されていた。

同日は、大潮とも重なり潮の満ち引きの差が大きく、干潮の時でも水位が30㌢程度になっていた。昼時の休憩時間に前迫石材㈱の浜島幸彦さんが河川を見ながらくつろいでいると同川右岸の水門付近の水たまりに大きな影が動いているのを発見。同社の城野克己工事部長が水深30㌢程の川に雨靴を履きバール片手に悪戦苦闘した甲斐あって無事巨大ヒラメを捕獲。ヒラメは水中からみた時よりはるかに大きく長さ81㌢、幅40㌢、重さ4㌔で捕獲の様子を見守っていた人達もただただ驚くばかり。

捕獲した城野部長は「昔は祇園洲の沖にはヒラメも多かったが、河川の水環境などの悪化で見かけなくなっていた。ヒラメはきれいな水質のところに生殖する魚で、稲荷川の河川がきれいになった現れと解釈したい」と思わぬ海の幸に表情が和らいだ。また、同河川近くに住む種田建設の会長も「最近、スズキもよく見かけるようになり、少しずつでも昔の川に戻りつつある」と水辺環境の改善を喜んだ。

巨大ヒラメを手に写真に納まる城野部長（右）ら＝稲荷川河口現場で

全建 国土交通大臣等に要望書

ダンピング防止を徹底

全国建設業協会（全建、銭高一善会長）は22日、扇千景国土交通大臣と片山虎之助総務大臣に対して、公共工事入札でのダンピングに当たるのか、欧米先進国並みに具体的な数字で設定するよう要望しているほか、ダンピング防止を義務付けた「入札契約適正化法」を市町村に順守させるよう強力な指導を求めている。

要望書では、ダンピングの防止措置として、①小規模市町村など、執行体制の整わない発注者は、最低制限価格制度を堅持するとともに、低入札価格調査制度へ移行している場合には最低制限価格制度へ回帰すること②低入札価格調査制度の厳正な執行③予決令第85条の運用を予定価格の92―94％に設定し、これ以下をダンピングとするなど、ダンピングの定義を具体的に設定すること―などを挙げ、各発注機関を指導するよう要請。また、入札契約適正化法が市町村レベルでは適正に運用されてないとして、国土交通省と総務省に是正措置を求めている。

全建によると、ある県では昨年7月から今年1月にかけて行われた一般競争入札で、約4分の1が予定価格の30％を下回っているという。

購読料のお支
お手軽で便
自動振替
鹿児島建設
099-227